



60

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。

## 井草八幡宮の桜を見に行こう！

長い冬も終わりを告げ、待ちに待った春がやってきます。春は節目の季節。この時期になると新しい生活を応援するがのように美しい花を一斉に咲かせるのが桜です。いつも見慣れた町並みも、桜が満開になると、華やいで見えるのがうれしいですね。

ここ杉並区も都内で有数のお花見スポットが各所にあり、毎年ぎわいを見せています。その中で、心静かに桜を楽しみたい方におすすめの場所が善福寺池のそばに建つ「井草八幡宮」です。鎌倉幕府の初代将軍として知られる源頼朝が、奥州征伐の道すがら

戦勝を祈願したと伝えられています。宮司の宮崎昌文さんによると、大正4年に大正天皇即位に関する記念事業があり、その際、植樹が行われたそうです。それまでは杉と松が中心だった敷地内に当時の氏子の方々が20種類、650本もの献木

をしました。その中に桜の木も含まれていました。現在と違って機械が発達していなかったため、氏子さんたちが自らの手で木を運び、植栽したのだそうです。

長い年月を経て、私たちが目にする桜の木ですが、それも人の手によって適切

な管理が行われないと美しい状態を保つことができません。神社の境内は「神域」と呼ばれ、神様が遊ばれる場所と考えられています。その場所を「住みやすく保つ」という思いが井草八幡宮の美しい桜を支えているのです。こうして守られてきた桜を感謝の心で楽しみ

ウェブサイト  
もあそび！

すぎなみ学

検索

たいですね。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、今年も「すぎなみでお花見しよう！」と題して区内のお花見スポットの桜開花情報をお届けしています。ぜひご覧ください。(ひ)

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。



59

## 杉並在来種の野菜が復活?!杉並の農業

杉並で出荷されている野菜の中で一番収穫量の多い野菜をご存じですか？ 答えは大根です。22年のデータによると、134トンで杉並区で収穫される青果の約2割を占めています。

杉並は平坦な土地が多く、古くから農業地として開拓されていました。都市化が進むなかで、農家戸数・耕作地ともに減少がみられますが、近年は「都市農業」が見直されつつあります。

その中で、新たに注目されているのが、「在来種の復活」です。江戸時代から昭和の半ばにかけて栽培されていた「高井戸筋成（ふしなり）キュウリ」は杉並在来種の野菜として知られています。江戸時代、「初物を食べると75日長生きする」と言われており、江戸っ子たちが競って初物を求めたことから、ほかの品種よりも早く出荷できる高井戸筋成キュウリが

盛んに栽培されました。しかし、栽培設備が充実してくると、次第に他の品種が栽培されるようになり、高井戸筋成キュウリが栽培されることはなくなってしまいました。そこで高井戸筋成キュウリの復活プロジェクトが発足し、実をつけた

キュウリから種をとる試みも始まりました。いつの日か杉並の在来種である江戸伝統野菜が食べられる時が来るかもしれませんね。

ところで杉並区のとれたて野菜を入手できるのをご存じですか。荻窪駅から徒歩10分の場所にある「杉並グリーンセンター・ファーム

ショップめぐり〜ん」です。区内の農家の方が丹精込めて栽培した生産物を毎週火・木・土曜日の午後2時～販売しています。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、杉並の農業に関する情報を公開しています。ぜひ、ご覧ください。（ひ）



ウェブサイト  
もあそびよ!

すぎなみ学

検索

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。



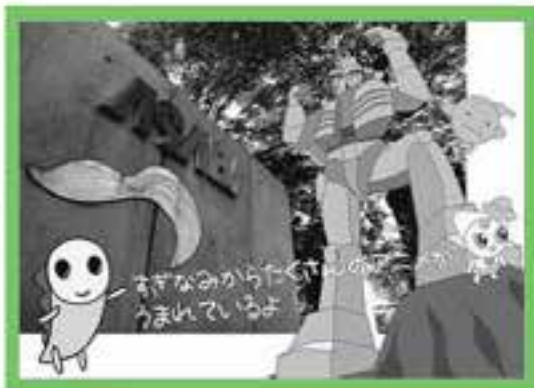
## アニメのまちすぎなみ

日本が世界に誇る文化であるアニメーション。上荻にある「杉並アニメーションミュージアム」は、アニメ全般を総合的に紹介する日本唯一の場所であることをご存じでしょうか。区内には、「ガンダム」シリーズで有名なサンライズや、「鋼の錬金術師」シリーズを手がけたボンズをはじめ、アニメーション制作会社が数多くあります。

上井草駅前にはガンダムの銅像が見られ、東京高円寺阿波おどりのポスターに「アクセル・ワールド」のキャラクターが採用されるなど、杉並はまさに「アニメのまち」といえます。

区内には、アニメーション制作を担う次世代の育成に力を入れている学校もあります。和田にある女子美術大学では、アート・デザイン表現学科でアニメーション制作の実習を行っています。同校では地域との交流の場を積極的に設けており、高円寺フェスをはじめ

とした区内のイベントでは、粘土を使ったコマ撮りアニメのワークショップを行っています。親子で参加できるイベントですので、学生さんと一緒にアニメ制作を体験してみたいかがでしょうか。



ウェブサイト  
もあまるよ!

すぎなみ学

検索

また、地下鉄新高円寺駅近くの阿佐ヶ谷美術専門学校では、本年度新設したキャラクターデザイン科の中でアニメーションを学ぶことができ、総合的にアニメーションプロジェクトの知識を持った人材を育成し業界に送り出すことを教育目標にしているそうです。

杉並区をあげてアニメーションを盛り上げていく熱意ある行動が、未来のアニメーション界を支えていくのかもしれないね。

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、「杉並とアニメーション」と題して特集記事を掲載しています。ぜひご覧ください。(ひ)

## 読書で「杉並」を見つけてみませんか

冷たい風が身に染みる季節となりました。「お散歩に出かけたいけど、寒いから家にいたいのも本音…」という声がチラホラ聞こえてきそうです。そんな方におすすめしたいのが読書です。小説やエッセー、コミック、アニメーションに至るまで、多くの物語の中に意外にも杉並が登場しています。

日本を代表する文豪が名を連ねた「阿佐ヶ谷会」には、井伏鱒二や太宰治も参加していました。井伏鱒二の作品には、荻窪を中心とした区内の地名が登場します。「荻窪風土記」は、第二次世界大戦前後の杉並の様子を知ることができる貴重な小説です。時代を超えてその地を訪れることができるのも読書のメリットの一つでしょう。

第101回直木賞受賞作品である、ねじめ正一著『高円寺純情商店街』は高円寺北口の商

店街にある乾物店が舞台となっており、思春期の細やかな心情と家族愛が描かれています。また、先年話題になった村上春樹著『1Q84』にも、主人公の天吾が暮らす町として高円寺が登場します。

活字ばかりの本が苦手という方は、コミックでも杉並を見つけることができます。食べることが好きな方にご紹介したいのが、伊藤理佐著『おいピータン!!』です。単行本の第4巻には荻窪の人気店が登場し、パティシエのおちゃめな一面が描かれています。読書のお供に忘れてはいけないのが、温かい飲み物とおやつで

すね。お気に入りの一品を見つけるのに便利なのが、すぎなみ学倶楽部のウェブサイト「杉並みやげ」のコーナーです。物語の中で杉並を楽しむことができる本を紹介する「読書のススメ」とあわせて、ぜひご覧ください。(ひ)



寒い日にごたつて本を読む!

ウェブサイト  
もあそび!

すぎなみ学

検索

## 道具で振り返る昭和という時代

11月23日祝は勤労感謝の日です。昭和の時代、多くの家庭では「家事の主役はお母さん」でした。

家事の中の一つである洗濯。昭和初期まで、家庭の洗濯は「洗濯板」を使っていました。ギザギザの平たい板に両手で布を押しつけて洗います。おむつ、ワイシャツ、足袋などをお母さんたちは3～4時間もかけて洗っていました。

昭和30年代に「洗濯機」が普及し始めました。当時は「三種の神器」の一つとして画期的な道具とされていましたが、ローラー式の脱水機は洗濯物をたくさん入れると回らなくなってしまふなど、不便な点も多くありました。

もう一つ、昭和20年代後半に登場した「編み機」をご存じですか？ 手編みよりも早く編み物ができると大ブームになりました。当

時は、編み機を使った編み物教室に多くの女性が足を運んでおり、お母さんが編んでくれたセーターを友達に自慢する子供たちもいました。

今はほとんど見かけなくなってしまった昭和の道具ですが、それらの良さが見直されています。例えば、洗濯板は全自動洗濯機が苦手な「部分洗い」が上手にできます。昭和の道具を現代の機械と併用すると、効率がアップする良い例ではないでしょうか。また、安く出回っている衣料品も、時間をかけて手作りすると、より愛着が湧き、「ものを大切に作る心」が生まれそうです。

すぎなみ学倶楽部では、<お母さんの【生活道具】コーナー>で数々の昭和の道具を写真付きで紹介しています。ぜひご覧ください。(ひ)



ウェブサイト  
 はこちら！

すぎなみ学

検索



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。

## ちょっと大人の「杉並発・秋の文化祭」へ出かけよう！

秋も深まるとやってくる文化祭。自慢の絵や工作を展示したり、音楽や歌をステージで歌ったり。子供の頃、ちょっとワクワクした思い出があるのではないのでしょうか。そんな気持ちを頭の引き出しにしまっておくのはもったいない！

ここ杉並で、大人の心を刺激する文化祭が開催されます。音楽派の方におすすめしたいのは、10月26日(金)・27日(土)開催、今年で18回目を迎える「阿佐谷ジャズストリート」です。地元の有志をはじめ、ボランティアスタッフで運営されているのも自慢のひとつ。阿佐谷の街中にジャズが響き渡るのを想像しただけでも心が躍りますが、百聞は一見にしかず。ぜひ生の演奏を聴いてみてはいかがでしょうか。杉並区区制施行80周年の今年は、27日(土)の午前11時から中杉

通りでパレードが行われます(1面参照)。例年とはひと味違うビッグイベントに注目です。

もう一つ、いつもにぎやかな高円寺の街がさらにヒートアップする「高円寺フェス」が10月27日(土)・28日(日)に開催されま

す。ストリートライブや、みうらじゅんさんとリリー・フランキーさんの対談やシンポジウムなど、「大文化祭」にふさわしい企画が盛りだくさんです。親子で楽しめるワークショップも開かれるので、工作の腕を振るうチャンスかもしれませんね。「すぎなみ学倶楽部」の



ウェブサイトも見るよ！

すぎなみ学

検索

ウェブサイトでは、阿佐谷ジャズストリートの顔である山下洋輔さん、高円寺フェス実行委員長の佐久間ヒロコさんのインタビュー記事を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。(ひ)

## 東京オリンピックで沸いた 50年前の杉並を振り返る

この夏開催されたロンドンオリンピック。日本人選手たちの活躍で大いに盛り上がりました。今から48年前の東京オリンピックの時も日本中が熱気に包まれました。杉並区を走る環状七号線は、このオリンピックのために整備された道路であることをご存じでしたか？ 杉並区役所前の青梅街道沿いでは区民92名による聖火リレーも行われました。

ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」では、東京オリンピックが開催された昭和39年頃の区民から寄せられた思い出を紹介しています。例

えば、当時小学生だった方は、通っていた桃井第三小学校で「給食室から脱脂粉乳の入ったミルク缶を運んだ」というエピソードを披露。また、ビートルズの人気絶頂だったのもこの時期で、当時高校生だった女性は「阿佐谷パールセンタ

ーにあった2軒のレコード屋さんで彼らの新譜をいち早く買い求め、何度も何度も聴いた」そうです。ほかにもグループサウンズ、貸本屋、銭湯、高度経済成長など、投稿された思い出話には懐かしいキーワードがいっぱい。日本中が元気にあふれていた昭和40年代に触れてみたい方は「歴史を学ぶ」コーナーの「温故知新」をご覧ください。

東京オリンピックから30年ほどさかのぼった昭和7年、杉並区が誕生しました。今年は区制施行80周年の節目。さまざまな記念行事が

行われています。10月13日(土)・14日(日)開催、桃井原っぱ公園での「杉並区80周年まつり」も楽しみです。これから杉並区が90周年、100周年と時を重ねるにつれ、区民の心の中に心温まる杉並の思い出がたくさん作られていくことでしょう。(西)



昭和39年の東京オリンピックでは  
聖火リレーが青梅街道を通過したんだよ。

ウェブサイト  
もあるよ!

すぎなみ学

検索

## いまだきうれしい安さと近さ。 区民プールに行ってみよう

そろそろ夏も終わり。なのに、しばらく暑さが続きそうです。この時期におすすめなのが、「近い！安い！涼しい！」区民プール。旅行や行楽で疲れた体に、うれしいお出かけ場所です。

京王井の頭線西永福駅から徒歩8分、大宮2丁目にある和田堀公園プールもその一つ。50mと25mプールのほか、幼児用プールもあるので、家族みんなで楽しめます。たっぷり泳いだあとは、和田堀公園を散策してみても。善福寺川沿いを歩いて和田堀池まで行けば、近くに釣り堀

「武蔵野園」があります。創業50年ならではのレトロな雰囲気のお店でアイスを買って、涼やかな水面に釣り糸を垂らせば、晩夏の風情が満喫できるのではないでしょうか。

和田堀公園プールのもう一つの魅力

は、夕焼けスイミング。午後6時の閉館時間間際は利用者も減り、あかね空を仰ぎながら、伸び伸びと泳ぐのも乙なもの。

屋外にある和田堀公園プール、阿佐谷けやき公園プールは9月10日までの営業ですが、それ以外の区民プールは夏季以外、夜間も利用できません（上井草スポーツセンターは午後10時30分まで、高井戸・杉十小温水プールは午後9時まで）。5月にリニューアルオープンした高井戸温水プールに併設している高齢者活動支援センターには浴場施設（入場は午後6時30分

まで）もあるので、泳いだあと、ひと風呂浴びて帰ることもできます。

プールや水遊び場所は、ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」の駅別まち自慢コーナー、スポーツコーナーで紹介しています。

（西）



ウェブサイト  
もあるよ！

すぎなみ学

検索





52

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。

## 自由研究のテーマにおすすめ 杉並メダカの観察とビオトープ作り

さあ、楽しい夏休みがスタート。親子そろって悩むのは自由研究のテーマではないでしょうか。人気のテーマといえば生き物の観察ですが、実は杉並区には、絶滅危機にひんした大変珍しい生き物がいるのです。その名も杉並メダカ！

杉並メダカは、荻窪にお住まいの昆虫学者、須田孫七さんによって発見され、現在も大切に飼育されています。東日本に生息した純血種と同じDNAを持つ貴重なメダカで、戦時中、防火用水のポウフラ退治に飼われていたものを、戦後も須田さんが自宅で飼い続けたことで奇跡的に生き残りました。現在、すぎなみ環境情報館で公開中です。ぜひ足を運んでみてください。

杉並メダカの一般家庭での飼育はできませんが、ペット用のヒメダカならば自

宅の水槽で飼育できます。タイミングがよければ、産卵や孵化の様子を観察できるかもしれません。メダカはもともと田んぼにすむ生き物なので、より自然環境に近いビオトープで飼えば長生きをします。東京大学総合研究博物館協力研究員でもある須田さんが、ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」で自宅で行えるビオトープの作り方を紹介しているので、チャレンジしてみてもいいかもしれません。興味深い自由研究のテーマになりそうですね。

ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」では、杉並メダカの詳しい紹介のほか、夏休みの自由研究にピッタリなセミの羽化の観察、区内の貴重木の情報などを公開しています。ぜひ、お子さんとご一緒にお楽しみください。

(西)



杉並メダカはあんさんがる荻窪4階「すぎなみ環境情報館」で公開しているよ

ウェブサイト  
もあるよ！

すぎなみ学

検索



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。

51

## 立ち止まって 野鳥を観察したことありますか

杉並区の魅力ってなんだろう？ と考え、最初に思い付くのは川辺の散歩。善福寺川沿いの遊歩道は、四季折々、風景が変わり、訪れた人の目を一年中楽しませてくれます。散歩ついでに足を止め、ゆっくり自然を観察するのもまた乙なものです。杉並区でも野鳥観察ができるのです。

例えば、善福寺川。日本で繁殖するサギの中では最も大きなアオサギを見かけることができます。小首をかしげ、餌を探す姿には愛嬌もあり、「がんばれ！」と応援したくなります。

カワウの潜水も、見応えがあります。善福寺川で見かけるウ（鶺鴒）は川で暮らすカワウ（川鶺鴒）ですが、長良川の鶺鴒飼いで有名なウはウミウ（海鶺鴒）なのです。これからの季節、潜水後の羽を乾かす姿を見るとプールに行きたくなりますね。ど

ちらも大型の鳥なので、見つけやすいかもしれません。

また夏の鳥といえばツバメ。第5次杉並区自然環境調査報告書によると2005年度にはアマツバメも杉並区にやってきたようです。ツバメが生息するためには餌となる昆虫はもちろん、巣作りに欠かせない環境が必要。都市化が進むとどうやらツバメには住みにくいようです。都内はもちろん日本全体でも見かけにくくなったようですが、今年はツバメたちに出会えるでしょうか。



ウェブサイト  
もあるよ！

すぎなみ学

検索

忙しい毎日ですが、時間が取れるなら立ち止まってゆっくり野鳥を観察できる余裕もほしいものですね。「すぎなみ学倶楽部」のウェブサイトでは、夏景色の野鳥の写真はもちろん、秋冬春の野鳥も紹介しています。(の)



毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。

## メディアに登場する杉並の姿 ～テレビや映画のロケ地紹介

テレビやコマーシャルのロケ地として、杉並区はよく利用されます。緑が豊かで、青梅街道・環状七号線などの幹線道路や歴史的な建造物・住宅があることなど「絵になるスポット」がコンパクトにまとまった杉並区は関係者にも人気があります。

荻窪駅南口にほど近い西郊ロッチングも、その一つ。開業当初は全室洋間の高級下宿でした。現在は、外国人観光客に人気がある本館の割烹旅館と若い世代からも注目の新館のアパートメントになり、ともに平成21年秋に国の登録有形文化財に登録された建築物です。よく磨かれた建物の造作や調度、廊下の照明に至るまで昭和のかわいらしさが漂う素敵な風情が印象的。映画やドラマの撮影関係者にも「古き良き昭和の雰囲気撮るならここ

！」という情報が広まっているそうです。過去に放送されたドラマでは、熱海の旅館として使われました。「私どもの雰囲気や歴史を大事にしてくれるかどうかを確認させていただき撮影に協力できるかを考えています。」とオーナーご夫妻。今度はどんなドラマで西郊ロッチングに会えるのでしょうか。

テレビやスクリーンを通し区内の風景が発信されているのを見て、興味がわきませんか。ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」では、ほかにも映画、テレビなどで舞台となった趣ある建物など、区内のロケ地を紹介しています。また区内の地名が実際に登場する小説・コミックの原作を紹介するコーナーもあります。物語やメディアの中で杉並区を再発見してみませんか。(の)



木の暖かみを感じるヨ。  
お手入れが行き届いてピカピカ！

ウェブサイト  
もあるよ！

すぎなみ学

検索

毎月21日号は、「すぎなみ学倶楽部」から  
ちょっといい話をお届けします。



49

## エコの時代だから知ってほしい、 東京ごみ戦争の歴史

私たちが生活する上で必ず出るごみは、どこで処理されているかご存じですか？ 杉並区では、高井戸にある杉並清掃工場がその役割を担っています。かつて、この清掃工場の建設をめぐる「東京ごみ戦争」と呼ばれる紛争が起こりました。

事の発端は、昭和41年に東京都清掃局が高井戸に清掃工場建設を突然公表したことに対し、地域住民が異議を唱えたことでした。反対運動は計画の取り消しを求めて訴訟にまで発展しましたが、東京都清掃局が23区内全てに清掃工場を配置するという「自区内処理の原則」を受け入れ、昭和49年に裁判での和解が成立しました。和解条項を基に東京都清掃局と地域住民との協議が行われ、その内容として、「最新鋭の公害防止施設を備え、公害の未然防止

を図る」「敷地内に集会施設等の利便施設を整備する」などが挙げられました。その後、昭和57年12月に杉並清掃工場と高井戸市民センターが完成しました。

高井戸の地域住民は、このごみ紛争の経験を生かすために「財団法人杉並正用記念財団」を結成し、清掃工場の操業や市民センターの管理運営などに関与し、環境・ごみ清掃問題の社会啓発などの活動を続けています。これらの先人の努力と知恵により、普段の「あたりまえ」の生活が支えられていることを、きちんと後世にまで残していきたいですね。



すぎなみ学

検索

すぎなみ学倶楽部のウェブサイトでは、区内の歴史などについて事件・出来事はもちろん、日常の暮らしのことも掲載しています。ぜひご覧ください。(ひ)